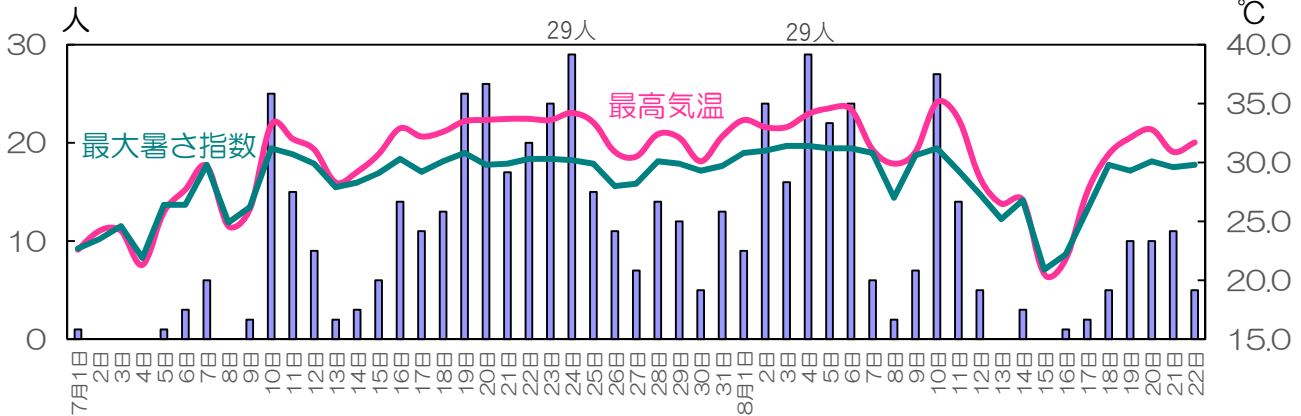


熱中症情報

＜搬送数＞

令和3年5月1日～8月22日までの搬送数（消防局データを使用）は、計622人（5月19人、6月42人、7月329人、8月232人）でした。8月に入り、最高気温が33℃を超え、搬送数も多かったです。8月12～17日は、30℃以下となり、搬送数は減少しました。8月18日以降は、最高気温が30℃以上で蒸し暑く、搬送数は若干増加しています。こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、暑さから身を守りましょう。

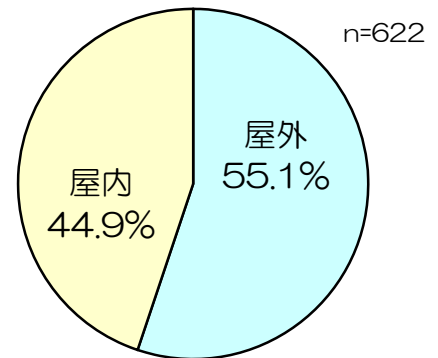
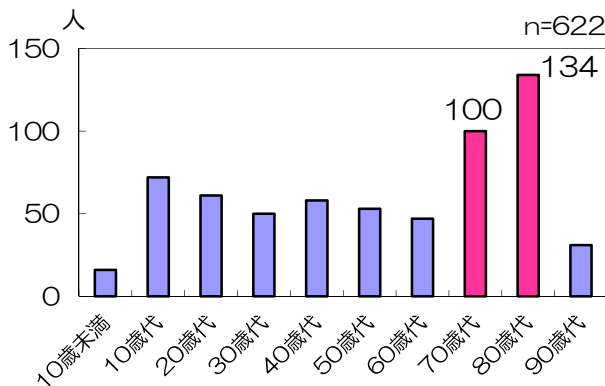
熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の防止とともに、熱中症予防にも心掛けましょう。



暑さ指数とは？人間の熱バランスに影響の大きい①温度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

以下のグラフのデータは、5月1日からの累積搬送数です。

＜年齢別＞ 80歳代が134人（21.5%）で最も多く、**＜発生場所＞** 屋外55.1%、屋内44.9%で、次が70歳代で100人（16.1%）でした。屋外での発生が多くなっています。



＜重症度＞ 軽症60.1%、中等症35.9%、重症2.7%、重篤1.3%でした。高齢者（65歳以上）の中等症以上の割合が56.6%と、高くなっており、高齢者に重症化する傾向がみられます。

